貧困削減

＊SDGsの17の目標のうち、関連のあるものを示しています。

貧困層が直面する複合的な課題の解決を支援

開発途上国全体の貧困人口は、1990年の47%から2015年には14%に減少しました※1。しかし、サブサハラ・アフリカでは、今も貧困層の割合は人口の約35%に上ります※2。また、全世界でいまだ約7億人が1日1.90ドル未満で暮らす貧困状態にあり※3、貧困から脱却した人々も、病気や事故、紛争、自然災害、市場の変化などにより、再び貧困層に転落する可能性のある脆弱な立場に置かれています。JICAは、開発の恩恵から誰一人取り残さない世界の実現を目指し、持続可能な開発目標(SDGs)のゴール1「あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」へ貢献します。

課題の概要

貧困層は多様なリスクに直面しており、これらに対応するためには、さまざまな分野での社会保障や保護、能力強化が必要です。特に近年は、大規模な自然災害、環境破壊、テロ、金融危機が貧困層の生活に深刻な影響を与え、貧困を増幅・拡大させる要因となっています。2020年初頭からの新型コロナウイルスの感染拡大により、社会・経済活動が低迷したことは、インフォーマルな日々の生業に依存している貧困層の生計に対して甚大なショックを与えつつあります。

貧困削減を進めるため、あらゆる分野の取り組みにおいて、貧困層や脆弱層のレジリエンスを高める支援を含めていくことが、一層必要とされています。

JICAの取り組み

JICAは開発途上国における人材育成・能力開発、政策・制度の改善、社会・経済インフラの整備などのあらゆる事業に貧困削減の視点を盛り込むことで、貧困層へのサービスデリバリーの構築を進めています。また、貧困層の良質かつ多様な金融サービスへのアクセスと活用、消費／支出の平準化、資産形成、リスクへの対応、所得の多角化と拡大を支援し、生活の安定と経済活動への参画を促します[➡ 下事例を参照ください]。

さまざまな障壁を抱える貧困層を対象とした取り組みは、マルチセクトラルなアプローチが必要であり、政府以外の多様な主体の役割がますます重要になっています。そのため、公的セクターの支援や市民社会との連携に加え、国内外の民間セクターとの連携も積極的に進め、貧困削減を後押しします。

※1〜3　World Bank “Global Monitoring Report 2015/2016: Development Goals in an Era of Demographic Change”
※4　すべての人々が、適切な価格で簡便に、また尊厳を持って質の良い金融サービスにアクセスし、利用が促進されること。

農業及び保健分野におけるイノベーティブな金融包摂アプローチに係る研究

小規模農家のお金のやりくりの謎を解く！

ミャンマー：現地調査における農民グループとのディスカッションの様子
[写真提供：株式会社かいはつマネジメント・コンサルティング]

貧困層は、日々お金をやりくりして、さまざまな生計や生活のニーズに対応しています。貧困層に対する協力では、農業や保健、それ以外の分野においても、「受益者の視点」でお金のやりくりを含めた分析をすること、そして公的機関だけでなく、民間機関から提供されているサービスを組み合わせることが重要です。

本プロジェクト研究では、小規模農家セグメントを対象として、世帯の生計(農業)や生活(保健・教育など)のお金のやりくりの実態と金融ニーズを明らかにしました。また、商業銀行、マイクロファイナンス機関、金融サービスと情報技術を結びつけたフィンテックなどによる多様な金融サービスの提供状況をどういった視点で確認すべきかを示しました。

それらを踏まえて、小規模農家を裨益対象とするプロジェクトで活用できる、金融包摂※4の視点を統合した調査手法をガイドラインとして取りまとめており、今後のプロジェクト形成への活用を促進していきます。